

岡山大学歯学部
新カリキュラム導入

2016



OKAYAMA UNIV.

新カリキュラム始動！

新しい時代を切り開く力のある学生を育てる

岡山大学歯学部は平成 27 年度に文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム に採択され、「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」を全国の 11 大学の歯学部と 共同で進めております。このプログラムでは超高齢化という次世代を見据えた新しい 歯科医学教育を構築し、それにともなった教育改革を進めます。

一方、岡山大学では、平成 28 年度から 60 分授業がスタートします。これにより授業枠が増加し、従来のカリキュラムでは不十分だった、先進的な講義内容を組み込むことが可能となります。

そこで、これら 2 つが重なったこの機会を絶好の好機ととらえ、岡山大学歯学部では 大掛かりなカリキュラム改革を断行することとしました。目指すは、新しい時代を切り開く力のある学生を育てることです。



窪木 拓男
歯学部長



2016年 始動

60 MINUTES X2

もっと
自由な
選択を。

90 MINUTES

OKAYAMA UNIVERSITY
THE 60-MINUTE CLASS & QUARTER SYSTEM

Okayama University, dedicated to radical reform of the current educational system, seeks a new horizon for university education. In response learning, we are introducing the 60-minute class and quarter system from the 2016 academic year as a major solution for educational reform. This reform results in the critical lesson school

岡山大学 60分授業始まる!



健康長寿社会を担う歯科医学教育改革
—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築—

達成目標:口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

- 課題**
1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
 2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままあてはまらない
 3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
 4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
 5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足



- 解決策**
1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
 2. 医学教育と歯科技術教育の融合、患者の機能低下にあわせた介入の選択
 3. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
 4. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、全国統一電子化授業ライブラリーを作成し、共有
 5. 教育を支える臨床研究能力の開発、さらなる研究フィールドの確保

① 講義シリーズ(連携大学共通、6単位)
○口腔と全身健康の関わり(2単位)、○がんの化学療法と各種外科的介入等における周術期管理(2単位)、○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育、死生学、多職種連携、地域包括ケア(2単位)

② シミュレーション・PBL演習
○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布、プレクニカル演習を開発
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する

③ 高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(右)
○昭和大学病院の歯学部保健学部合同病棟実習など



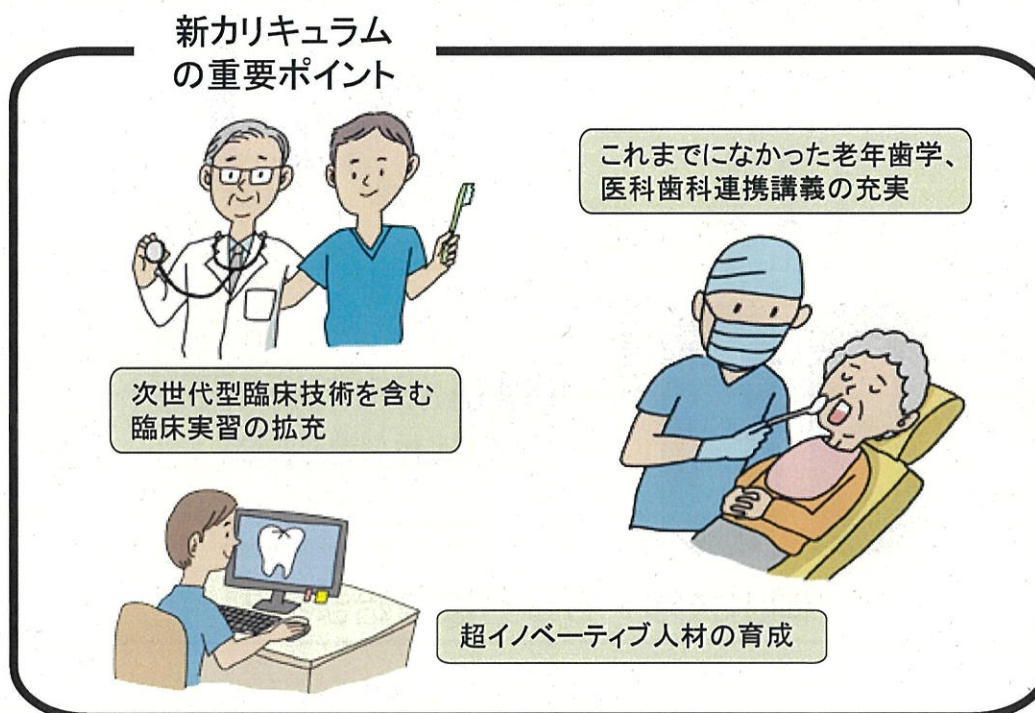
④ 在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習、○日本大学の摂食機能学実習、○東京大学高齢社会総合研究機構 在宅プロジェクト実習フィールド、○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等

⑤ 高齢者の疫学研究フィールド
○東京大学の柏研究フィールド、○大阪大学や京都府健康長寿医療センターのSONIC研究フィールドに歯科として積極的に参画し、高齢者医療における多職種連携研究を進め、健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映する。

ITを利用した講義の共有(eラーニング)、各担当校間の教員および学生の相互交流、主幹校(岡山大学)による全国規模のシンポジウム開催、海外専門家の招聘講演

文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」
平成27年度採択

新カリキュラムの重要なポイントは3つ！！



① これまでになかった老年歯学、医科歯科連携講義の充実

新カリキュラムでは従来の歯学教育ではあまり教えられなかった、老年歯学、死生学、また、周術期ケアや地域包括ケアなど医科歯科連携のシステムなどを新しい講義として導入、e-learning システムと組み合わせ、効率的に歯学教育に組みこみます。ご承知のとおり、日本は世界でも有数の超高齢化社会の先進国であり、この日本での取り組みは将来の世界スタンダードになる可能性を秘めた、大きな取り組みといえます。

② 次世代型臨床技術を含む臨床実習の拡充

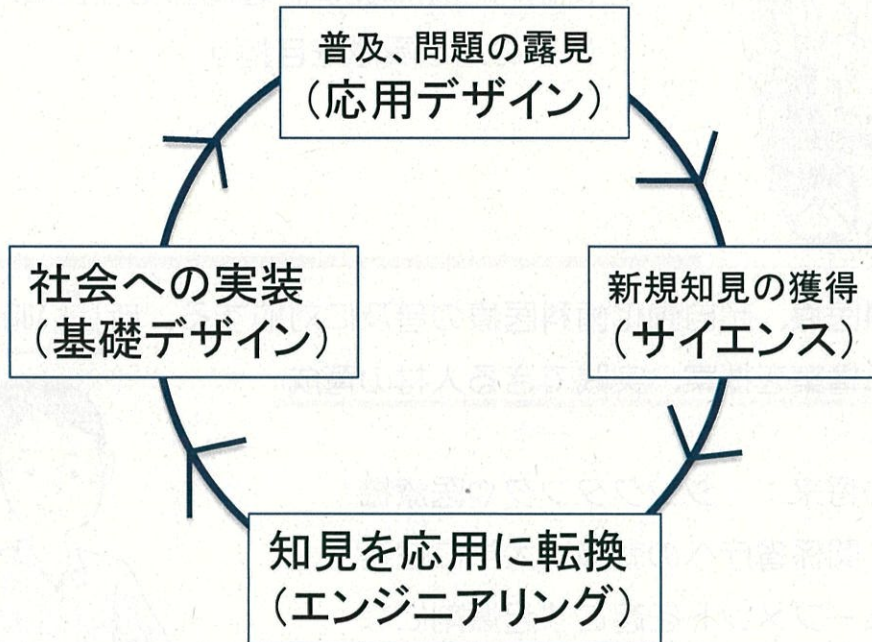
①の新たな講義、老年歯学、医科歯科連携教育の成果を実装するには、通常最終学年で行う臨床実習の拡充が必須です。そこで、岡山大学歯学部では臨床実習の開始時期を5年生の7月に早め、臨床実習期間を拡大することにしました。また、同時に編入学についても従来の3年次入学を1年早め2年次入学とし、早期から基礎歯学、臨床歯学を学ぶ体系構築を進めます。

③ 超イノベティブ人材の育成

新入学生に対しては、全学での教養教育に加え、歯学部独自の取り組みとして、超イノベティブ人材育成カリキュラムを導入します。このカリキュラムでは、問題を俯瞰的に視る能力を高め、自分自身の意見、アイデア、発想を自分の言葉で人に伝える。さらに、その改善、実行を通じて、新たな社会的取り組みを進めることができる人材の育成を1年を通して行います。

新カリキュラムのさらなる特徴

新カリキュラム の特徴



ニューメタボリズム型カリキュラム

従来からの歯学教育ではコアカリキュラムという必修講義内容が決められており、このコアカリキュラムに沿って各大学では講義が決められています。このコアカリキュラムは、数年に1度の見直しはあるものの、本質的には長年にわたって使われている歯科医学書をベースにした教育です。

しかし、これに加えて、現在の歯学教育では、社会情勢、国際情勢など、様々な周囲の状況に応じて柔軟に変化するカリキュラムも必要と考えられます。今回、60分授業の導入にともない実質的な講義のコマ数が増加し、ここに、コアカリキュラム以外の教育を盛り込むことが可能となりました。

そこで、新規知見という科学（サイエンス）のレベルから工学（エンジニアリング）へ転換、さらにその実装、普及といったシステムの構築（デザイン）へと、入口から出口までの循環を教育として施すカリキュラムを創りました。

新カリキュラム導入の目標

1. 老年学、死生学、周術期ケアなど、超高齢化社会の歯科医療ニーズにマッチし、医科歯科連携に長けた新しい時代の歯科医療人材の育成



この人たちの将来： 病院など診療施設での包括的歯科医療に従事。超高齢化社会に対応した新しい形の地域貢献を目指す。

2. 超高齢化歯科医療、超自動化歯科医療の普及に対応する、新しい時代の歯科医療システム構築を提案、実践できる人材の育成

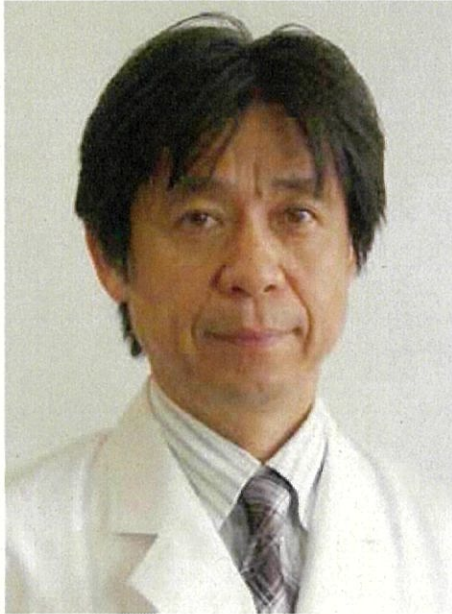
この人たちの将来： シンクタンクや医療機器メーカー、関係省庁への就職や大学に在籍し、新たなムーブメントを起こす起爆剤になる。また、新しい歯科医療システムに関連したベンチャー企業のローンチを目指す。



3. 日本発の新しい歯科医療システムをアジア、アフリカなど海外へと普及することにたずさわる人材の育成



この人たちの将来： 関係省庁、シンクタンク、総合商社、歯科医療材料機器メーカーなどとも協力し、日本発の歯科医療を普及する伝道師として海外に拠点を形成し、国際的に活躍する歯科医師を目指す。



森田 学 教授
(教務委員長)

今回の新導入カリキュラムには大きな3つのポイントがあります。1つはこれまでになかった老年歯学、医科歯科連携講義の充実、2つ目は次世代型臨床技術を含む臨床実習の拡充、3つ目は超イノベティブ人材の育成です。ベースとなるのは、課題解決型高度医療人材養成プログラムに関連した取り組みです。待ったなしの状況にある超高齢化社会に対応した歯科医療を、安心・安全に提供できる人材の養成に努めます。

また、歯学生の臨床能力低下を補完し、向上へと転換するプログラムを充実させるとともに、次世代の歯科医療の姿を創出すべく、厚みのある未来型歯科医療人材の育成に取り組みます。

現在、歯学教育は大きな転換期にあります。社会構造の変化に伴い、歯学教育は多様な歯科医療ニーズ等に対応した歯科医師を養成することが求められています。課題解決型高度医療人材養成プログラムはそれを実現するためのものですが、さらに、歯科医師として必要な臨床能力の確保するための教育の改善・充実も求められています。そこで、今回の新カリキュラムでは、社会のニーズに対応できるよう、次世代の歯科医療を担う臨床技術を学ぶ臨床実習教育を質・量ともに拡充しました。さらに、単に臨床能力の確保のみならず、未来の技術革新に繋がる芽を育てるために、早期から基礎歯学、臨床歯学を連携して学ぶ教育体系を構築しました。挑戦的な取り組みですが、今後PDCAサイクルを回すことによって、よりクオリティの高い歯科医師育成を目指します。



宮脇 卓也 教授
(臨床実習実施部会長)

『議論は飽きた。始めちゃえ！』



OKAYAMA UNIV.